

## 管内の概要

# 管内の概要 (但馬県民局「但馬地域ビジョン」より)

## 地勢・気候

但馬は、兵庫県北部に位置し、北は日本海、南は播磨地域及び丹波地域、東は京都府、西は鳥取県に隣接し、東西・南北方向それぞれ約 60km にわたり、面積は 2,133.44 km<sup>2</sup> と県全体面積の約 1/4 を占め、東京都の総面積に匹敵する広大な地域です。

豊かな自然環境に恵まれ、山陰海岸国立公園、氷ノ山後山那岐山国定公園及び但馬山岳、出石糸井、朝来群山、雪彦峰山の 4 つの県立自然公園があります。水量豊かな円山川をはじめ竹野川、矢田川、岸田川等が日本海に、市川が瀬戸内海にそそいでいます。

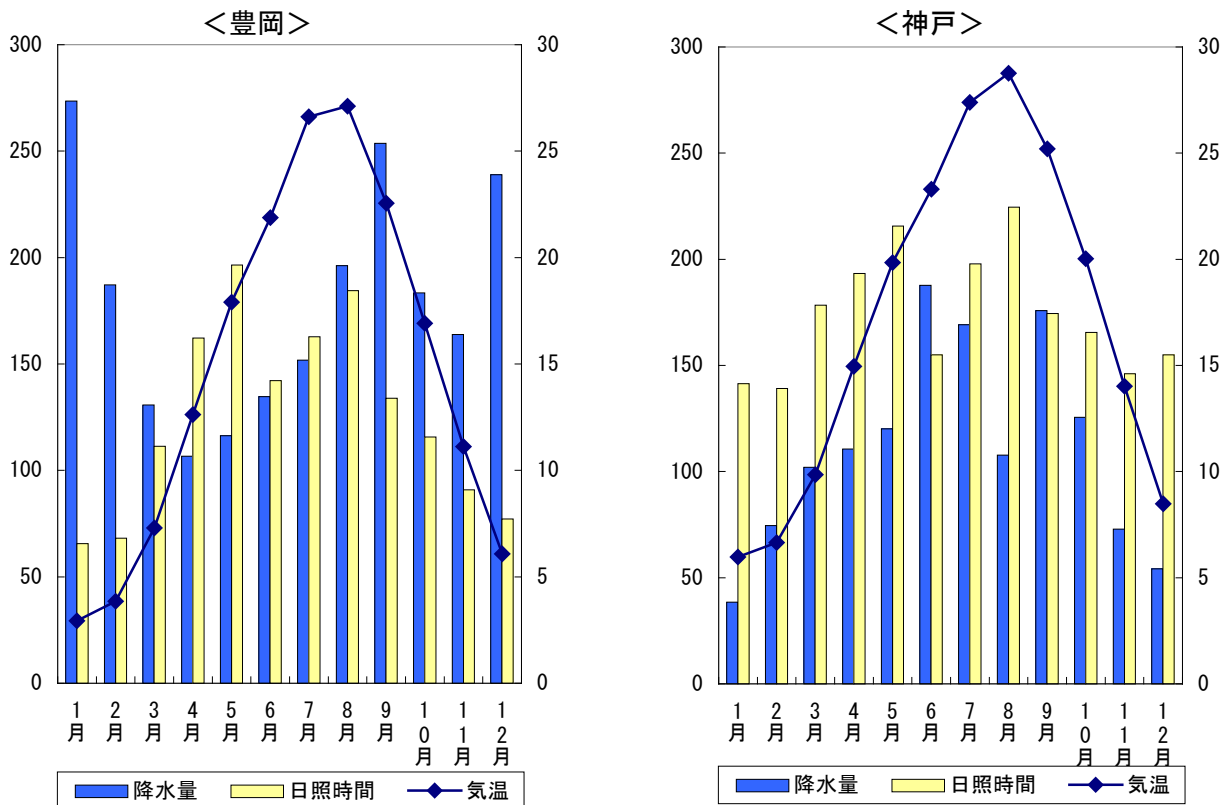
全般に山が多く、兵庫県最高峰の氷ノ山（ひょうのせん）1,510mをはじめとする 1,000m級の山々が連なり、その間に平地が形成されています。また、火山帯地域でもあり、城崎温泉や湯村温泉をはじめ各地で温泉が湧出しています。

植生は、氷ノ山等の山頂部には自然林であるブナ林がみられますが、大半はコナラ等の落葉広葉樹やアカマツなどからなる里山林やスギ、ヒノキ等の人工林となっています。

コウノトリをはじめ、特別天然記念物であるオオサンショウウオやイヌワシ等も域内に生息しており、これらの希少な動物の生息は但馬地域の恵まれた自然を象徴しています。

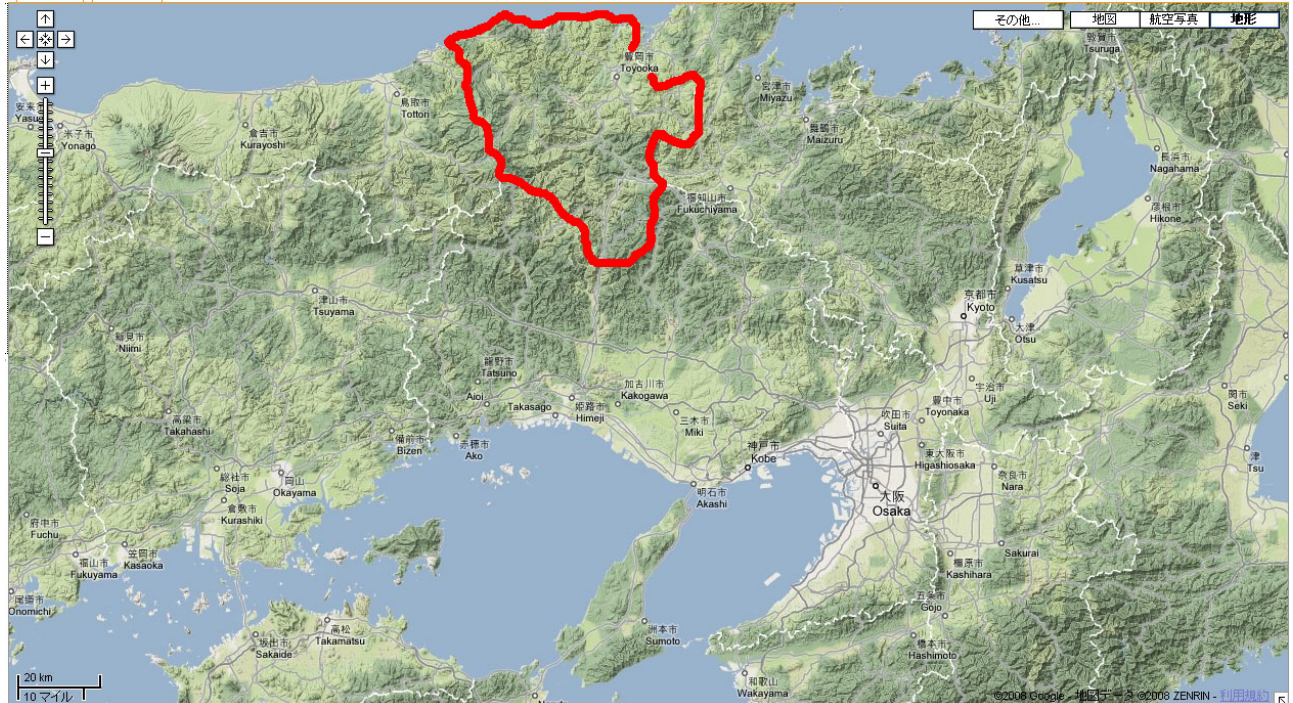
気候は日本海型気候で冬期はシベリアからの北西の季節風の影響を受けて降雪量が多くまた、中央山岳地帯は寒暑の差が大きい内陸型の気候となっています。

気象の状況 【過去 10 年（2008 年～2017 年）の平均値 気象庁ホームページより】



各項目、左軸が平均降水量（単位：ミリ）と平均日照時間（単位：時間）、右軸が平均気温（単位：度）

但馬の位置 (Google map より)



## 歴史・文化

古代の但馬は、「天日槍（あめのひぼこ）」の渡来伝説にも見られるように、大陸や朝鮮半島との関係が深く、日本の文化・経済の表玄関であったと言われています。奈良時代には、但馬地域も但馬国となり、その中心地が但馬国府として日高町に置かれたほか、江戸時代には、出石・豊岡・村岡に藩が、生野銀山には代官所が置かれました。竹野・香住などは西まわり北前船の寄港地として栄えました。

明治4年に但馬・丹後・丹波の一部で構成する豊岡県が成立しましたが、明治9年に兵庫県に編入され、今日に至っています。

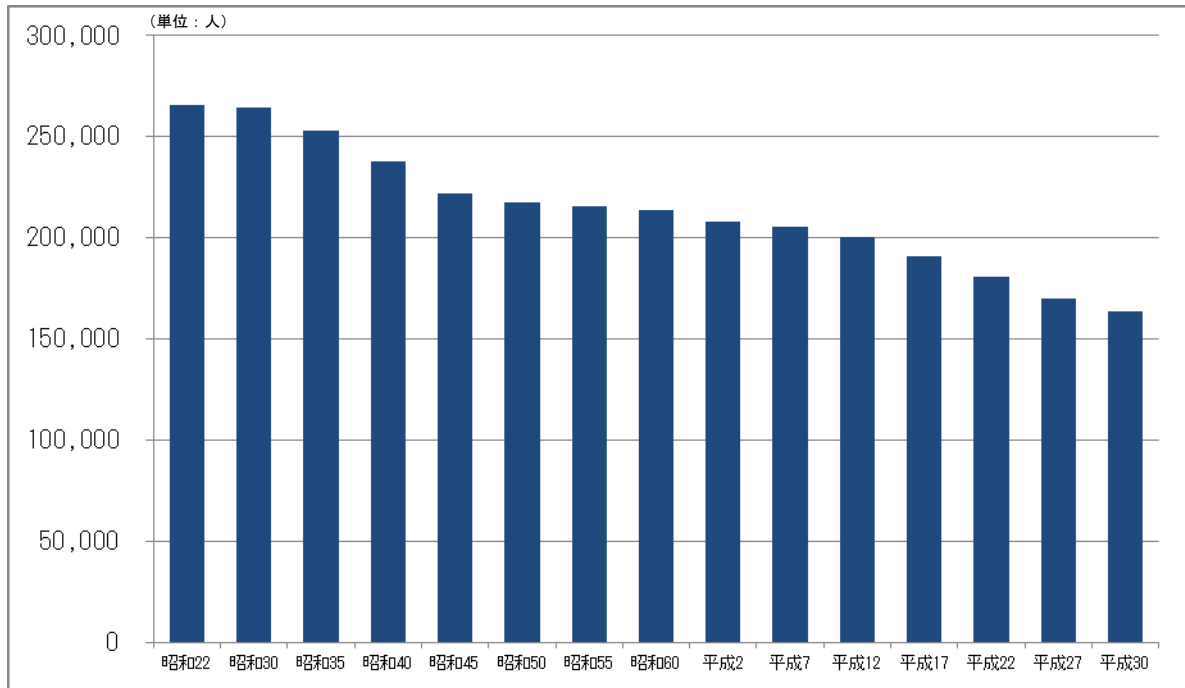
但馬地域からは、青谿書院の創設者である池田草庵、琵琶湖疎水を開いた北垣国道、明治の教育者浜尾新、日本近代眼科の父河本重次郎、肅軍演説を行った政治家斉藤隆夫、天才歌人前田純孝、世界の冒険家植村直己など多くの人材を輩出しています。

また、文化財としては、円山応挙の描いた大乘寺のふすま絵、鉱石運搬のために架けられた日本最古の鉄橋である神子畑鉄橋、わが国屈指の山城である竹田城などが多数存在しているとともに、数多くの国・県指定の無形民俗文化財や祭りがああります。

## 人口

人口は163,575人と県全体（5,489,933人）の2.9%の比率となっています。昭和22年の265,876人をピークに減少し続けています。（兵庫県HP「兵庫県推計人口平成30年5月1日現在」より）

国立社会保障・人口問題研究所が行った人口の将来推計によると、但馬の人口は、今後も一貫して減少傾向をたどるものと推測されています。



## 産業

但馬の市町総生産額は6,047億円で、県下の2.9%となっています。産業別でみると、第1次産業が186億円、第2次産業が1,314億円、第3次産業が4,502億円となっています。（兵庫県統計課「平成28年度市町内総生産速報値」より）

### ①第1次産業

県下の第1次産業の総生産額1,054億円に対して、但馬の第1次産業の総生産額は186億円で17.6%を占めています。その内訳は、農業が117億円、林業が16億円、水産業が52億円となっています。

農業では、ピーマン・だいこん・キャベツ・ほうれんそう・ねぎ・黒大豆・梨が主要な作物として作られるとともに、優れた肉質を誇る但馬牛が各地で生産されています。また水産業では、3つの地方港湾と15漁港をもとに、沿岸・沖合漁業が営まれています。水揚げされる主な魚種は、マツバガニ（ズワイガニ）、ホタルイカ、スルメイカ、ベニズワイガニ、アカガレイ、ハタハタなどであり、全国でも屈指の水揚げ量となっています。

### ②第2次産業

県下の第2次産業の総生産額5兆9,424億円に対して、但馬の第2次産業の総生産額は1,314億円で2.2%を占めています。その内訳は、鉱業8億円、製造業が1,126億円、建設業が179億円となっています。製造業の主なものは、食料品、電気、機械、金属、繊維、かばん等となっています。また伝統的な地場産業は、豊岡かばん、杞柳製品、但馬ちりめん、出石焼、日高の畳、竹田の家具、和田山のばね

等があります。

### ③第3次産業

県下の第3次産業の総生産額 14兆4,792億円に対して、但馬の第3次産業の総生産額は4,502億円で3.1%を占めています。

内訳は、電気ガス水道業が313億円、卸売・小売業が585億円、金融・保険業が276億円、不動産業が888億円、運輸業が242億円、情報通信業が79億円、飲食・サービス業が295億円となっています。

## 観光

主要な観光地として、古くから名湯として知られる城崎温泉や湯村温泉のほか、但馬の小京都と呼ばれ皿そばが有名な出石などがあります。また、近年は、大河ドラマで一躍注目を浴びた黒田官兵衛ゆかりの城として、朝来市竹田の「竹田城跡」に多くの観光客が訪れており、城崎温泉等、海外からの旅行者も増加し、インバウンド需要が高まっています。この他にも、豊かな自然を活かし、神鍋高原やハチ高原等のスキー場のほかに、竹野浜や浜坂ビーチなどの海水浴場なども点在しています。

観光客数は城崎温泉が前年比95.4%と小幅な減少となりました。また、竹田城跡は前年から91千人の減少となって来場者を落とす一方、雲海に浮かぶ竹田城が見学できる立雲峡は15千人の増加となりました。また、前年度はシーズンを通じて少雪に見舞われたスキー場全体については、前年比46.4%増となる464千人に増加しました。

竹野浜海水浴場は、新たに海上アスレチックを導入した効果などにより前年比114.0%増となる241千人となりました。結果、但馬地域への観光入り込み数は、前年度(10,331千人)から213千人の減少となる、10,118千人となっています。(平成28年度兵庫県観光動態調査より)

## 交通

主要道路は、東西軸として、国道9号線・178号線などのほか、南北軸として、国道312号線などの国道が中心になって構成されています。また高速・広域自動車道として、姫路方面からは播但自動車道が和田山まで、丹波方面からは北近畿豊岡自動車道が日高まで伸びており、以北については現在延伸工事が行われています。

鉄道は、JR山陰本線・播但線、京都丹後鉄道宮豊線が管内を走っています。また、平成6年に開港した「コウノトリ但馬空港」も、但馬の空の玄関として利用されています。

## 管内の概要（参考）

	但馬全域	豊岡市	養父市	朝来市	香美町	新温泉町
人口（H30.5.1推計人口）	163,575人	79,781人	23,523人	29,786人	16,899人	14,056人
世帯数（H30.5.1推計人口）	61,940世帯	30,459世帯	23,053世帯	11,577世帯	6,137世帯	5,199世帯
面積	2,133.50km <sup>2</sup>	697.66km <sup>2</sup>	422.78km <sup>2</sup>	402.98km <sup>2</sup>	369.08km <sup>2</sup>	241.00km <sup>2</sup>
人口密度（上記数値による）	76.6人/km <sup>2</sup>	114.3人/km <sup>2</sup>	55.6人/km <sup>2</sup>	73.9人/km <sup>2</sup>	45.7人/km <sup>2</sup>	58.3人/km <sup>2</sup>
市町内総生産（H28年度速報値）	604,718百万円	307,081百万円	78,992百万円	130,595百万円	49,834百万円	38,216百万円
第1次産業	18,651百万円	7,614百万円	2,125百万円	2,450百万円	3,700百万円	2,762百万円
第2次産業	131,478百万円	66,220百万円	14,756百万円	38,479百万円	8,325百万円	3,698百万円
第3次産業	450,232百万円	231,034百万円	61,542百万円	88,725百万円	37,450百万円	31,481百万円
主要観光地利用者推計（H28年）	10,118千人	3,971千人	1,282千人	2,294千人	1,502千人	1,069千人
日帰り客	8,269千人	2,834千人	1,063千人	2,173千人	1,162千人	814千人
宿泊客	2,062千人	1,137千人	219千人	121千人	340千人	255千人

出典：兵庫県ホームページ推計人口（平成30年5月1日現在）、平成28年度市町内総生産速報値、平成28年度兵庫県観光動態調査より

## 農業に関する指標（参考）

	但馬全域	豊岡市	養父市	朝来市	香美町	新温泉町
総農家戸数（戸）	12,073	4,455	2,397	2,322	1,449	1,450
うち販売農家（戸）	6,234	2,543	978	1,202	679	832
うち自給的農家（戸）	5,839	1,912	1,419	1,120	770	618
耕地面積（㌧）	10,990	5,010	1,530	1,740	1,540	1,170
うち田	9,201	4,260	1,180	1,600	1,170	991
うち畑	1,789	746	342	149	369	183
耕作放棄地面積（㌧）	1,490	502	280	209	283	216
うち販売農家	391	146	58	52	56	79
うち自給的農家	427	139	89	58	80	61
うち土地持ち非農家	674	218	134	99	147	76

出典：農林水産省2015年農林業センサス、農林水産省ホームページより

※ 本ページに記載の数値・指標は出典記載の行政等作成資料から抽出したものです。数値・指標の内容、調査方法等についてのお問い合わせにはお応えできませんのでご了承ください。